

財政比較分析表の説明

〈財政比較分析表における各指標について〉

1 財政力指数

財政力を示す指数で、毎年度算出される数値の過去3年間の平均値です。財政力指数が高いほど、財源に余裕があるといえます。

2 経常収支比率

財政構造の弾力性を判断するための指標で、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費に充てられた一般財源の額が、地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源に占める割合です。この比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表します。

3 実質公債費比率

地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源の中で、公債費や公営企業債に対する繰出金など実質的な公債費相当額に充てられたものの占める割合の前3年度の平均値です。

この比率が18%以上の場合は、地方債の発行に県知事の許可が必要となります。さらに、25%以上、35%以上の段階により、地方債の発行が一部制限されることとなります。

4 人口1人当たり地方債現在高

人口1人当たりの地方債現在高（普通会計負担分）です。

5 ラスパイレス指数

市職員の給与水準を表すものとして、一般に用いられている国家公務員行政職（一）職員の俸給を基準とする市一般行政職職員の給与の水準を表しています。

6 人口1,000人当たり職員数

人口1,000人当たりの職員数です。

7 人口1人当たり人件費・物件費等決算額

人口1人当たりの人件費、物件費及び維持補修費の合計です。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含みません。

〈財政比較分析表の見方について〉

財政比較分析表は、財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率、人口1人当たり地方債現在高、ラスパイレス指数、人口1,000人当たり職員数及び人口1人当たり人件費・物件費等決算額について、類似団体との比較結果を分かりやすくレーダーチャート等を用いて図示するとともに、その結果について、要因及び指標の改善に向けた取組み等を分析したものです。

・レーダーチャート（分析表中央部）

類似団体の平均値を100としたときの市の指数を表しています。

指標が良好であればあるほど高い指数となるように計算されていることから、当該団体の七角形が平均値の七角形から外に広がれば広がるほど、財政状況が良いことを示します。

・個別指標図（レーダーチャート周辺の7つのグラフ）

指標ごとに市の数値と類似団体の平均値及び最大値・最小値を棒グラフの形で示しており、平均値との差が一目でわかるようになっています。

併せて、類似団体の平均値とは別に、全国市町村の平均値、市町村財政比較分析表においては県内市町の平均値も記載されており、それらとの差も把握できるようになっています。

・分析欄（レーダーチャート下）

指標ごとに「なぜそのような数値になったのか」、「当該数値の背景にはどのような原因又は努力があるか」等を明らかにするとともに、「今後、数値の改善に向けてどのような取組みを行っていくか」ということについて、「集中改革プラン」等に基づく具体的な数値目標等を織り交ぜながら記述したものです。